

# タイトルタイトル

代表取締役社長 中村□□

## 一誠会 第26期総会

去る9月28日(水) 中村建設(株) 協力会・一誠会の第26期平成17年度総会が、午後4時からオークラアクソシティホテル浜松にて開催された。一誠会々員は、丸山会長をはじめ66名と名古屋一誠会からは特別に加藤会長と理事2名、中村建設から社長ほか役員並びに幹部の多数の参加をいただき大いに意義ある総会となり成功裡に終了した。

総会の内容を以下紹介します。

### 第一部 総会

一、高木副会長の開会の辞の後、丸山会長から前期は一誠会の25周年にあたり、会の行事も例年と違って海外視察や合同部会での愛知万博視察等いろいろな内容が問題もなく運営できて充実した年であった。また、建設の業界においては建設投資額が



年々減り、近年においては50兆円強となり、大変厳しいなか大いに工夫され会員皆様が発展されんことを夫々に頑張つてほしい旨などを挨拶の中で話された。

二、中村社長の挨拶においては、中村建設の創立50周年(創業85周年)がちょうど一誠会の記念の年と合い重なり、6月に開催した記念式典へ

の参加に感謝の意を述べられ、今後の建設事情と各会員の益々の繁栄を祈念され、今後も車の両輪で互いに努力し発展しよう。と話された。

三、議事・丸山会長が議長となり議事にはいり、事務局から平成16年度事業報告及び収支決算報告と平成17年度事業計画(案)及び収支予算(案)の説明があり、夫々承認可決された。

四、記念品贈呈 中村建設(株)から、本社一誠会並びに名古屋一誠会(今年度20周年)に夫々記念品陶器一式が、贈られた。

五、来賓挨拶・清水銀行浜松支店 長鈴木総一郎様及び井ノ口泰三様から、建設事情の厳しいなかでもお互い努力協力により大いに一誠会を育てて頑張つてほしいことの激励を戴いた。

### 第二部 総会記念講演

NPO法人建築技術支援協会専務理事の米田雅子様から『建設業の新分野進出』という演題で一時間半に



米田先生そして名古屋一誠会の方々も最後まで参加していただき、盛会裏に閉会した。

## 優良工事技術者表彰

浜松河川国道事務所  
平成15年度1号中野町道路建設工事  
現場代理人 畠田 学

7月16日の国土交通Dayにあわせて国土交通省中部地方整備局は05年度優良工事者、安全施工者、優良業務請負者、優良技術者の表彰式を行いました。

当社においても土木本部の金田学さんが優良技術者として受賞の荣誉に浴することができましたので紹介させていただきます。



## 母校の紹介に協力

当社の建築工事部の平野貴久君(平成17年入社)に、母校の浜松工業高校より、社会で活躍している浜工の卒業生を紹介するビデオに出て欲しいとの依頼があり、過日現場にて撮影が実施されました。

当社としても、平野君のますますの活躍を期待しています。



## 土曜ゼミ

土木本部 金田 学

今回ゼミナールに参加するに当たって、自分なりにテーマを掲げました。それは「全て肯定から入ろう」これから勉強していく内容をまず肯定して全て吸収した後、自分なりに価値観を見い出せればということに参加しました。ゼミは計4回「思想」

「戦略」「組織」「人材」のカテゴリーに分けられ進められました。今回は特に印象に残った内容を以下に明記します。

### 1 思想

思想より戦略は優先、戦略より組織は優先、組織より人材は優先する。つまり会社にとって一番重要なのは人材ということだ。しかも漢字で書けば「人材」という文字となる。人が人を尊敬し信頼をする、これが能力格差になる。つまり部下から尊敬・信頼されないといけないということ

である。また、日経新聞の中で成功された人々の「私の履歴書」の紹介で、成功した人の共通点は以下の3点です。「良き友に恵まれた」「良き師に出逢う」「健康に恵まれた」ことが人生における大きな財産になるということ。

### 2 戦略

歴史とは、過去と現実の対話であり、未来の道標である。歴史から学べる所と今の新しい手法の取入れることが戦略となりうる。

### 3 組織

組織にとって必要なことは以下の4点である「役割分担」「一既一切」「不如学」「数値挑戦」

### 4 人材

人材とは社長の分身 人材となるには、本にかける値段(自己啓発)収入の3%が目安。  
どんなに大きな会社・組織であっても人(人材)が一番重要であることを学びました。これからの仕事において常に心がけて行きたいと感じました。